

進路環境D

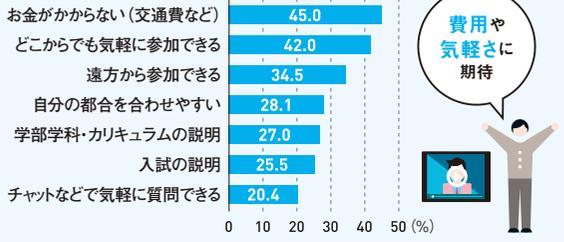
—「今」が見えてく

そのまま教室に掲示！

進学^の動向

気軽に参加できるWEBオープンキャンパス

[高校生がWEBオープンキャンパス(OC)に期待していること]

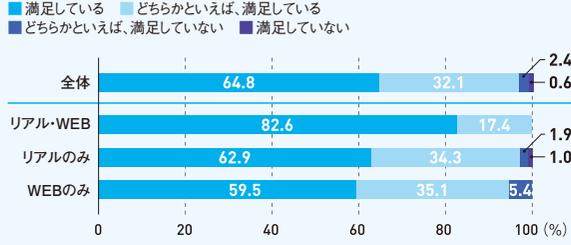


志望校決定に向けて重要な情報源となるのがオープンキャンパスだ。オンライン開催が増えているが、その内容は学部学科の紹介、入試説明、模擬授業動画の配信、キャンパスツアー、オンライン個別相談など多彩。気軽に参加できる良さを活かして、積極的に利用したい。

リクルート進学総研「コロナウイルス流行による進路選択行動影響調査」(2021年)
※複数回答/上位7項目を掲載

リアルとWEBの両方参加で満足度UP

[進学先のオープンキャンパス参加における満足度]

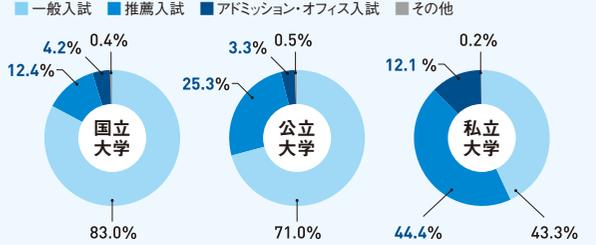


進路検討の材料として、WEBオープンキャンパスを利用する人が増加。参加満足度は総じて高いものの、リアルとWEBの両方に参加した学生ほど満足度が高い。オンラインでの情報収集も積極的に活用しながら、リアルなオープンキャンパスで学校や生徒の雰囲気や把握しよう。

株式会社アンド・ディ「オンラインオープンキャンパスに関する調査」(2021年)
※「リアル」は「学校で開催されたオープンキャンパス」を示す

大学入試は多面的・総合的評価の方向へ

[入試方式別に見た大学入学者の割合]

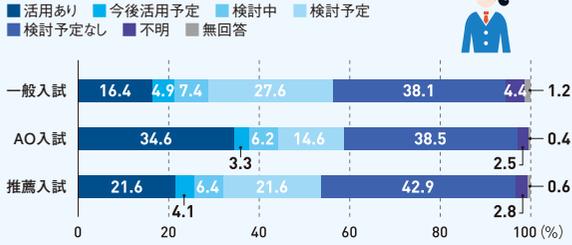


2021年度入試からの新たな入試区分^aでは、そのすべてで学力の3要素(知識・技能・思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性)を問う多面的・総合的評価を実施。校内外の幅広い活動での学びが評価される。
*2021年度入試より一般入試→一般選抜、推薦入試→学校推薦型選抜、AO入試→総合型選抜に名称変更

文部科学省「令和2年度国公立大学入学者選抜実施状況」より集計
※「その他」は専門高校・総合学科卒業生入試、帰国子女入試、中国引揚者等子女入試、社会人入試の合計

将来を見据えた英語4技能の習得を

[大学入試における英語資格・検定試験活用状況]

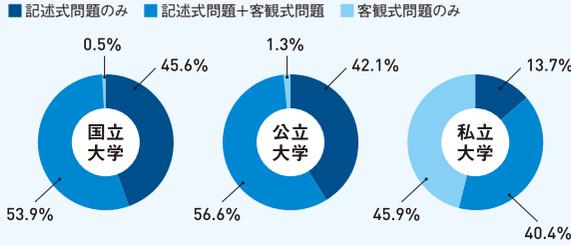


大学入試では、いずれの入試方式^aでも英語4技能(読む・聞く・書く・話す)を測る民間の検定試験の活用が進んでいる。「今後活用予定」「検討中」という学校もあり、今後も活用比率の上昇が予想される。大学入学後やその先のグローバル社会を見据えて4技能習得を目指したい。

文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査(令和2年度)」
*2021年度入試より一般入試→一般選抜、AO入試→総合型選抜、推薦入試→学校推薦型選抜に名称変更

記述式問題で問われる思考力・判断力・表現力

[一般入試における出題形式の状況]



大学入学共通テストへの記述式問題導入は見送られたが、個別学力検査では既にほとんどの国立・公立、半数強の私立が記述式問題を出题している。解答には自らの力で考えをまとめたり、根拠に基づいて論述したりする思考力・判断力・表現力が必要。日頃の授業から自分の考えを言語化する練習を。

文部科学省「大学入学者選抜における英語4技能評価及び記述式問題の実態調査(令和2年度)」
※記述式: 語句、文、図表などで解答/客観式: O×式、選択式、並べ替え式など

地元の学校に通う学生は増加傾向

[地元残留率の推移(全体)]



大学入学者の地元残留率は、2011年の43.2%から2020年は44.1%と、10年間で0.9ポイント上昇。短期大学入学者では同年比較で2.5ポイント上昇している。都市部にも地方にも、魅力ある学校や企業は数多くあるもの。広い視野をもって進路選択を行って。

リクルート進学総研 マーケットレポート2021年3月号
[18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向]

大卒者の10人に1人は進学も就職もしていない

[大学・短期大学卒業生の学部系統別進路状況]

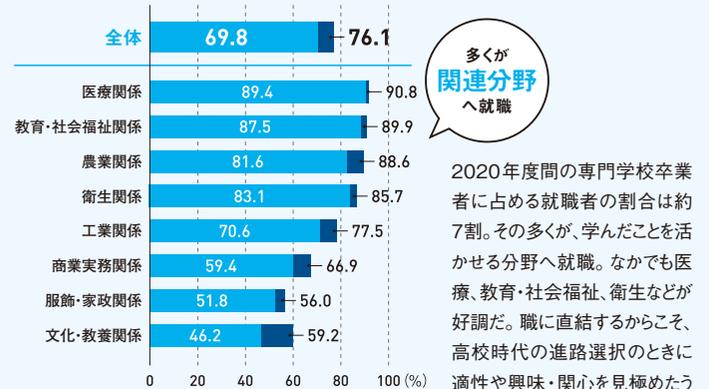


2021年大学卒業生全体に占める就職者等の割合は76.2%。大学院等への進学者は平均10.9%だが、理系学部の比率は高め。進学でも就職でもない(無業)者は9.6%存在。大学で何を学ぶか、目的・目標をもって進学することが卒業後の進路につながる。

文部科学省「学校基本調査」(2021年3月卒業生について) ※「進学者」とは、大学院研究科、大学学部、短期大学本科、大学・短期大学の専攻科、別科へ入学した者(就職しかつ進学した者を含む)
※グラフでは「臨床研修医(予定者を含む)」「専修学校・外国の学校等入学者」「不詳・死亡の者」を「その他」として集計

職に直結していく専門学校の学び

[専門学校卒業者の就職状況]

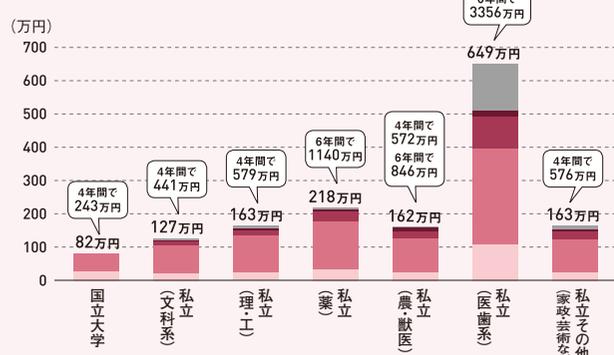


2020年度間の専門学校卒業生に占める就職者の割合は約7割。その多くが、学んだことを活かせる分野へ就職。なかでも医療、教育・社会福祉、衛生などが好調だ。職に直結するからこそ、高校時代の進路選択のときに適性や興味・関心を見極めたいうえで進学することが欠かせない。

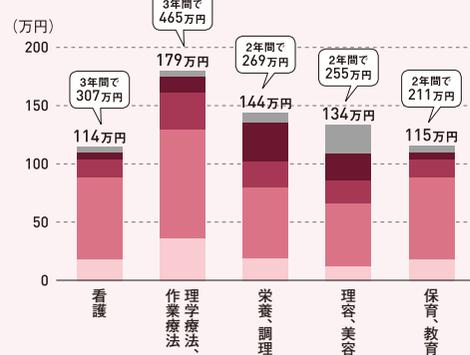
文部科学省「学校基本調査」(2020年度間)より集計

初年度学納金は約100万円〜。分野によって大きな差

[大学の初年度納付金]



[専門学校の初年度納付金]



大学の初年度納付金(上記凡例5項目の合算)は、国立はほとんどが標準額82万円だが、独自に値上げを行う大学も。私立は学部系統によって異なる。専門学校の初年度納付金も分野による差が大きく100万〜180万円程度。いずれも就学年数によって卒業までの費用が変わるので、入学前に総額の見直しを立てておくことが大切だ。

文部科学省「令和3年度私立大学入学者に係る初年度学納付金平均額(定員1人当たり)」(昼間部)
※国立大学は標準額 ※1万円未満は四捨五入 ※フキダシの数字は卒業までにかかる総額の目安

東京都専修学校各種学校協会「令和3年度 学生・生徒納付金調査結果」専門課程(専門学校)平均(昼間部)より抜粋
※1万円未満は四捨五入 ※フキダシの数字は卒業までにかかる総額の目安

進学費用の動向

